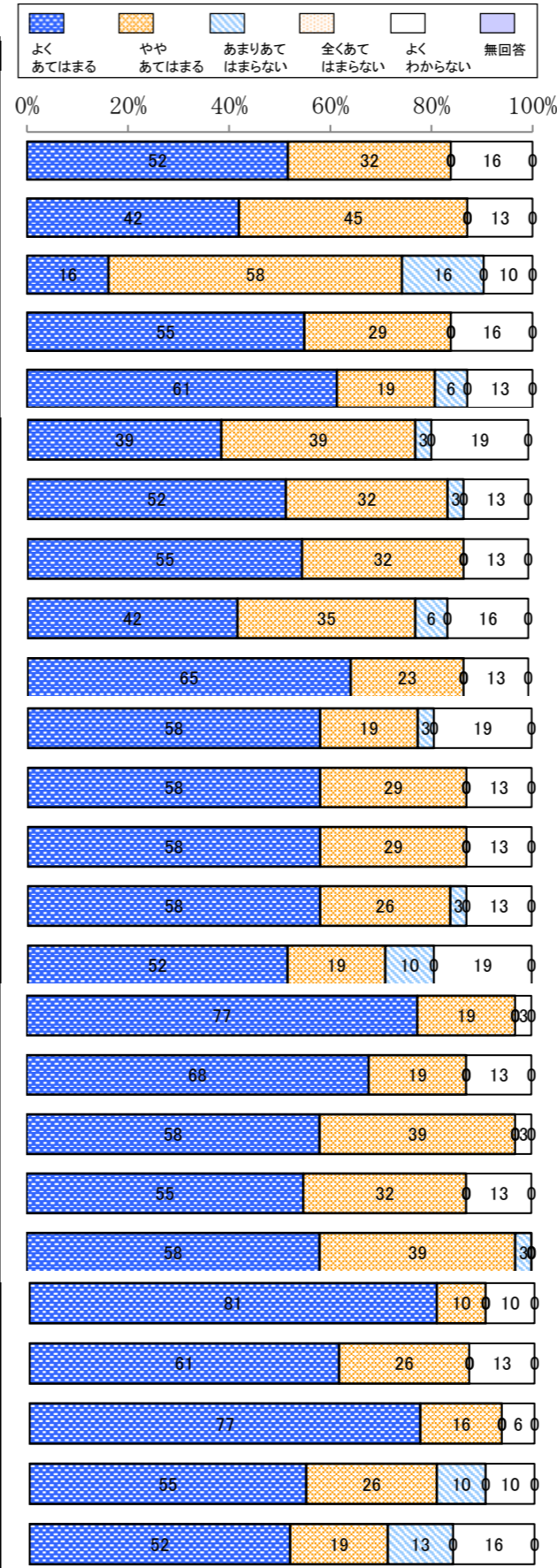


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分らない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	40	43	12	3	2	1
	2	児童・生徒の様子	69	23	6	1	1	1
	3	基本的な生活習慣	52	39	7	1	0	1
	4	児童・生徒理解	48	34	15	1	2	1
	5	健康・安全・安心	61	26	10	1	1	1
学力向上の取組	6	分かる授業	57	33	8	1	0	1
	7	個に応じた指導	62	29	4	2	2	1
	8	学習習慣	71	18	9	1	1	1
	9	情報教育	78	17	4	1	1	1
	10	学校図書館の活用	78	16	6	1	0	1
社会性・人間性の育成	11	人権教育	60	32	4	1	2	1
	12	道徳教育	53	29	12	2	4	1
	13	教育相談	47	24	11	12	6	1
	14	人間関係づくり	79	17	4	0	1	1
	15	自治的な活動	66	24	8	1	1	1
保護者・地域との連携	16	情報発信	42	30	12	4	12	1
	17	相談への対応	54	29	8	3	5	1
	18	学校への参加	67	23	5	2	2	1
	19	地域との連携	47	24	17	9	2	1
	20	意見の反映	51	30	8	2	8	1
各学校の特色ある教育	21	学校行事の取り組み	72	19	5	1	2	1
	22	基礎・基本の定着	52	26	13	6	2	0
	23	自主的な休み時間の活用	77	14	6	2	1	1
	24	異学年交流の推進	53	29	13	2	2	1
	25	外部人材の活用	57	26	10	2	4	1

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

◎肯定群は児童（83%）保護者（94%）ともに多い。児童にとってはなじみ深い3つのキャラクターと教育目標・取組との関連をより分かりやすく伝えていく必要がある。

◎肯定群は児童・保護者ともに92%以上。保護者は「あてはまる」に比べて「ややあてはまる」が多いので、児童の頑張っている様子をホームページ等で保護者へ具体的に伝えていく必要がある。

○児童の肯定感9割を超えているものの、保護者85%、教員74%と隔たりがある。引き続き学校全体であいさつやきまりについて徹底できるよう指導を継続していく。

△16%の児童が否定群であり、自己肯定感を得られるような指導の工夫を充実させていく。なお、保護者については、昨年度82%から90%へ向上。引き続き丁寧な対応を行っていく。

◎保護者は99%が肯定群である。年度初めに実施している引き取り訓練や、月1回の避難訓練などの取組が認められていると思われる。児童の10%が否定群であるので、防災教育の意義についてより具体的に周知していく。

◎児童・保護者ともに90%が肯定群である。今後もより分かりやすい授業を工夫していく。

◎児童の91%が肯定群である。昨年度より5ポイント向上した。算数少数指導の実施や授業での個に応じた指導が児童の分かりやすさの実感につながっているものと思われる。

◎あらかわ寺子屋の実施や家庭学習の課題等で、学習習慣の定着に向けて取り組んでいる。寺子屋については、より自主的に参加できるような工夫をしていく。

◎電子黒板が全学級で使われており、分かりやすい授業を支えている。タブレットPCは各学年が様々な教科で活用している。今後、一層効果的な活用に取り組む。

○児童の利用回数も増えているが約6%の児童・保護者が否定群である。読書だけでなく、総合的な学習の時間や社会科などでも調べ学習に活用している事実を認識できるようにする。

○児童の約9割が肯定群である一方、児童の5%、保護者の約11%が否定群である。いじめ対策を今以上に組織的に行っていく。

○児童・保護者ともに肯定群が昨年度比5ポイント以上向上している。道徳授業地区公開講座だけでなく土曜授業公開や公開週間の授業、保護者会での周知など行っていく。児童には、道徳の授業だけでなく日常での指導も重視していく。

△教員は87%が肯定群であるのに対し、児童・保護者の肯定群は73%と意識の隔りがある。担任はもちろん、養護教諭やスクールカウンセラーなど、幅広く相談できる体制を伝えていくとともに、組織的対応、丁寧な初期対応に努める。

◎児童も保護者も96%以上肯定群である。よい人間関係を築き、仲良く学校生活を送っていること分かる。

◎高学年を中心に自治的な活動をし、下学年に引き継いでいっている。今後ますます充実させていきたい。

○保護者は学校からの配布物やHPをよく見ている。PTAとも連携しHPをリニューアルすることにより、保護者の利用が増えた。児童には学校で見せたりどんな内容が掲載されているか丁寧に伝えたりしていく。

○児童・保護者ともに肯定群が昨年度比5%向上している。しかし、依然として10%弱が否定群である。相談内容に応じて、組織として丁寧に取り組む必要がある。

◎保護者からの意見を考慮して、学校行事等柔軟な対応をとった経緯があり、おおむね肯定的である。来年度は、保護者会を土曜に設置するなど、多くの保護者が参加できるよう努める。

△26%の児童が地域の行事に参加してないと感じていることが明らかになった。学校からも参加の呼びかけ等を行っていく。また、地域や町会の方とも連携し、児童が参加できる行事等を知らせていく。

○保護者の肯定群が10ポイント向上しているか、よく分からないか15%であった。評価アンケートの結果の周知等、より分かりやすく丁寧に伝えていく必要がある。

◎児童のほとんどが学校行事に主体的に参加している。活躍の様子を保護者にも期待され、励まされていることがわかった。

◎ほとんどの児童がマスタータイムを中心に基礎基本の徹底を図っている。課題のある児童はあらかわ寺子屋などでも学習するように促す。

◎90%の児童が校庭で遊んだり、学校図書館で本を読んだりして、自分で考えながら休み時間を楽しく過ごすことができていた。約30分間のスーパー休休みを来年度も引き続き設定していく。

○低学年児童は異学年交流を楽しみにしているが、高学年になるにつれて否定群が増えている。活動内容や方法の見直しと改善を図る。

○児童、保護者ともに85%近くが肯定群である。しかし、児童の12%が否定群だった。教育活動における外部人材がどのように位置付けられているかを周知していく必要がある。